

大会中毒者に贈る、夢の二大チャンプ競演実現！ 最強のフィールドで最強の二人が豪快に釣り込む…!!

8 **特集Ⅰ 夢競演 in 野田幸手園 岡田清 萩野孝之**

両ダンゴの季節到来！ 小雪舞う早春の三島湖で繰り広げられた、釣神のエサ合わせに迫る!!

23 **特集Ⅱ 釣神両ダンゴ in 三島湖 小池忠教**

編集部厳選。今年の乗込みは、ココを狙え！ 亀山湖、佐原向地、印旛水系、城沼

194 **特別企画 厳選乗込みイチオシスポット**

34 **名手・石井旭舟がいく、へら鮒出合い旅… へらぶな浪漫街道**
《第四十回》豊英湖・松節 躍動の春

148 **稲毛利夫 野釣り場地獄巡り**
《第5回》師匠、40上を釣る!? (茨城県・友部Jct付近の野池)

40 **中澤岳 フィールド真つ向勝負**
《Vol.5》三重苦の吉羽園

152 **吉川ひとみのあっち こっち そっち♡**
《Vol.4》ひとピー佐屋川で大金星!?
ショップ:玉田釣具 釣り場:佐屋川 西之森寄せ場

47 **杉山達也のSUPER SPLASH!**
《ROUND.5》飽くなき探求・時代の必然。ウドンセット!! さくら湖

156 **北川穂積 西の交友録**
《第5回》ゲスト:森 勝美さん 釣り場:芦田川(広島県)

53 **《新連載》戸張 誠 関べら戦記**
《第三回》3月例会 巣離れの三島・豊英湖

159 **伊田釣具店 「八雲」一路60年 記念作品展 開催!!**

★AREA REPORT

58,66 **精進湖** 本誌・伊藤洋一
60,68 **春の北陸釣り場7選** 山本一朗
61,69 **勝賀大池(岐阜県)** 後藤 誠
62,70 **高山ダム(三重県)** 前田誠志
63,71 **戸切川&前川(福岡県)** 河口正伸

160 **私の宝物**
《Treasure.10》ゲスト:松岡 弘さん

203 **碧舟45周年記念釣り大会**

204 **釣りの帰りに寄りたいお店**
《file.17》埼玉県浦川市【らーめん いち力】の白ネギのり朱麺

206 **釣果予想クイズ**

208 **フィッシングレディ**
《今月のレディ》岩間百合さん 神扇池

134 **竹とともに生きる。**
《第31回》「若駒」 大福勝好

137 **棚網 久の我流**
《第四回》春の精進湖を釣る!

143 **田辺哲男&小林森之の問答無用へらツアー**
《Vol.5》“試合”の洗礼。羽生吉沼ミニ賞金大会!

p.180
**新春特大
プレゼント
当選者発表!**

p.165~
**釣り場割引
クーポン券**
野田幸手園 椎の木湖
清遊湖 谷和原大沼 隼人大池
上尾園 F.A吉羽園 谷養魚場
将監 柳生 F.P 筑波白水湖
泉堰 逆井HC 友部湯崎湖
水藻FC 甲南へらの池
三和新池 狭山HC 新座LC
川越FC 府中HC 当麻池
多賀釣池 芦田湖水光園
鳥羽井沼 朝日池 大上へら池
霧の沼 小川つり堀園
清川つくしFC
千代田湖・舟宿 千和
精進湖・釣宿 金風荘
西湖・釣舟 白根
西湖・釣り宿 丸美
西湖・釣り宿 青木ヶ原



▶今月の表紙
angler: 岡田清 萩野孝之 小池忠教
field: 野田幸手園&三島湖
photo & layout: 本誌・里

へら鮒
5月号
May.2006 No.485

75 **へら鮒釣り 超基本講座【道具作り編】**
《第17回》羽根ウキの作り方 2枚合わせ編②

119 **へら鮒ブログ 西田美明**
《第5回》「クスリが主食!」の巻

81 **ガチンコ道場**
《第5回》第1回ガチンコトーナメント開催!

122 **母なる湖…琵琶湖べらを釣れ! 南彦彦**
《第13回》ヒマなしカネなしショウカなし!?

88 **都祭義晃 カリスマ伝説**
《Vol.5》話題の「釣りバラ」はトマにも楽園か

126 **野田幸手園新聞**

92 **石川裕治が伝授する王者の法則**
《第5回》両グルの底 清遊湖

162 **ワクワク管理釣り場情報**

171 **小売店情報**

99 **江成公隆のトーナメンター、復活への道。**
《Vol.47》熱戦プレイバック!

★へら鮒BOX
177 里ちゃんの新米編集長雑記
178 情報発信基地
181 **柴舟「SAIKAI倶楽部」第3回懇親会 開催!!**
182 ボイス
187 コラム『日研だより』日研広報部長・遠藤克己
188 コラム『日々是、勉強!』 ホワイト
189 コラム『紀州“想いの竹”のものごとり』中塚伸行
190 プレゼント発表
191 広告索引
192 編集後記

106 **すずめつつ へら鮒調査隊! 天野正由**
《調査ファイル05》春を見つけてきてちょう~だい 相模川上流・宮沢湖・田貫湖

110 **水辺のプラネタリウム 吉本亜土**
《今月の星空》「石山隆典」

114 **最狂へら戦士養成所「鮒の穴」 漢タカハシ**
《第三十九話》稲毛師匠プレゼント!! 地獄巡り in 印旛水系。炸裂! 秘技イナゲウアー!?

STAFF

●Producer
根本百合子

●Editor in chief
田中里史

●Editor
大場勝良
諸富一秋
伊藤小百合
伊藤洋一

●Planner
〈オフィス・えび〉
藤原 肇

※小池忠教「K'S FORM&STYLE」及び、岡田清「Deep Side Angle」は、誌面の都合上お休みさせていただきます。

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の トーナメント、 復活への道。

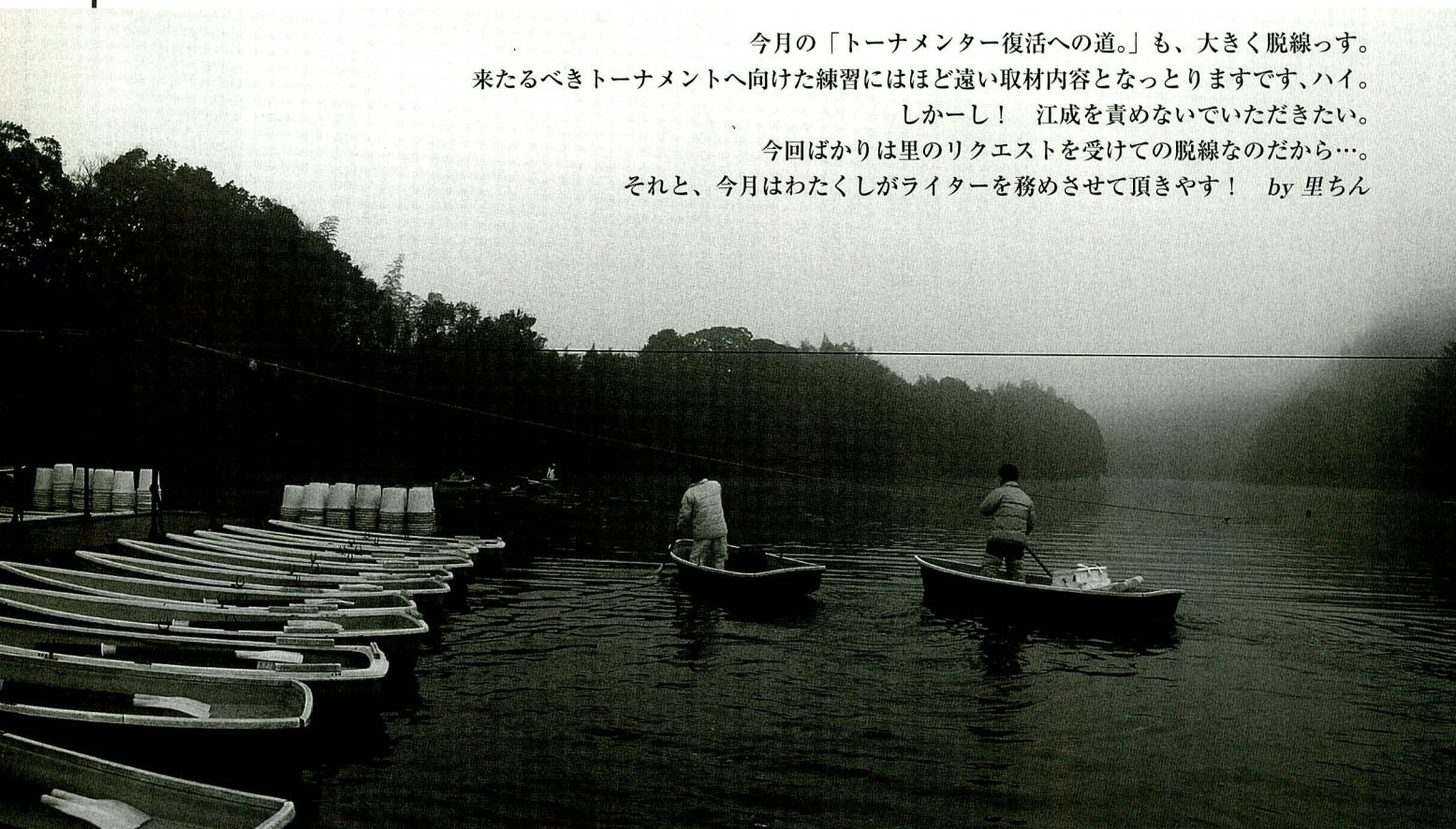
text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web運動企画！ -いよいよ再発進！ (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

〈Vol.47〉

熱戦プレイバック！

「一歩進んで二歩下がる!?!」

今月の「トーナメント復活への道。」も、大きく脱線っす。
来たるべきトーナメントへ向けた練習にはほど遠い取材内容となっとなります、ハイ。
しかーし！ 江成を責めないでいただきたい。
今回ばかりは里のリクエストを受けての脱線なのだから…。
それと、今月はわたくしがライターを務めさせて頂きやす！ by 里ちゃん



古川 実君に

その男は颯爽と江成のパジェロから降りてきた。

「何回かお会いしたことはあると思うんだけど、まともに挨拶するのは初めてかなあ？とにかく今日は邪魔にならないように釣らせて頂きますんで、宜しくお願いしますねー！」

その男のあまりに常識的な、そしてあまりに爽やかな第一声に、里は正直、困惑した。イメージと違い過ぎる…。

外見もまた然り。里のイメージからは激ヤセに映るその体型は、本人いわく「ダイエツトですよ。これで標準体重」だそうだが、十年という月日の中で、様々なドラマがあったであろうことは容易に想像出来た。江成の後を追うかのように、忽然とトーナメントシーンから遠ざかったその男の名は、「大竹照夫」。

最近の読者には全く聞き覚えのない名前かもしれないが、いまや押しも押されぬスーパーチャンプとなった岡田清、そして江成公隆と共に、「神奈川三人衆」とまで呼ばれたほどの男である。メジャートーナメントでの実績から見れば、里にとって大竹氏は江成よりも強烈なインパクトを残したと言えなくもない。メディアから姿を消したこの男の十年に、里は大いに興味があった。なぜなら、へらの専門誌を読み漁っていた学生時代、大竹氏は江成と共に、里にとって憧れの人であったからである。

「大竹君が九州に行っちゃうんだよ！」電話の向こうの寂しそうな江成から、里に貴重な情報もたらされた。これは最後のチャンスかもしれない…里にはどうしても聞いておきたいことがあった。そこで里は、今回の取材に大竹氏を連れてくるよう江成にリクエスト。



本誌1996年1~12月号に連載された「大竹照夫の熱戦プレイバック!」。大会優勝者とタイムン勝負する、という対戦企画で勝ちまくっていた(ほぼ全勝)。ちなみに、この前年は「江成公隆のどんまいフィッシング」が連載。当時は、20代の若者が連載を持つことなど考えられなかった時代。それだけ、江成&大竹の両者がへら鮎界を騒がせていた、ということなのである

「いやあ、これまでも何度が誘ってらんだけど、いつも嫌がってたんだよね…」

そこを説得するのが江成じゃないか。「粘り強く交渉して欲しい」と、里は懇願。そして数日後、

「大竹君、行くつよ。そのかわり大竹君の行きたいところをいいかい?」

勿論OKを出す。かくして取材場所は三島湖に決まった。

「大竹さん、江成さんから聞いてはいたんですけど、瘦せたらホントに古川実君に似てますねえ?」

「マジ?全然似てないと思うんだけどなあ。そういえば古川君がG杯獲ったんだって?」

鳥居君も惜しかったんだってね。みんな相変わらず頑張ってるなあ」

「そうですね、鳥居さんは転勤先の岐阜から出たんですから」

「ふーん。じゃ、オレも九州から出てみつかない? なーんてウンぴょん!」

意味不明の発言に困惑しつつも、朝の挨拶での優等生ぶりから一転、本来の氏のペースに乗せられていく感覚に、楽しい一日になりそう予感を覚えた。

バラケて昼寝。

大竹氏の現役時代を知る者達の間で、今でも語り草になっているエピソードがある。「バラケに昼寝事件」である。氏が所属していたサンデーマスターズの例会前日、某管理釣り場にて試釣をしていた大竹氏に、まだ入会間もないある会員が本番の釣り方を聞いたらしい。

「明日はどんな釣り方がいいんでしょうか?」

「うーん…バラケに昼寝?」

大竹氏は真顔で答えたそう。その会員は震えながら拳を握り締めて耐え、喧嘩にはならなかったらしいが、大竹氏も相当やんちゃだった(らしい)からその度胸ではある。里はまずこの真偽を確かめてみることにした。

「大竹さん、これってかなり相手をナメてると思うんですが?」

「別にナメてたわけじゃないよ。クソ寒い中日やって10枚も釣ったら大将ってな釣況にせ、正解も地合もあるかってーの! エサ打ってボケるぐらいなら、置き竿で寝てた方がよっぽど拾えるよ。そういう意味で言ったんだけど、分かってもらえなかったみたいだよね、残念ながら」

「そうですね…うーん…でも大竹さん、だとしてもやっぱり通じにくいですよ!」

「別にいいよ、どうでも。他人がオレをどう思おうが知ったこっちゃねえし。誰かのために釣りやってるわけじゃないしね」

これまで里が聞いていた大竹氏の評判は、正直あまり良いとは言えなかった。しかし、誤解が誤解を呼び、皆、本当の大竹氏が見えていなかったのではないか。そういえば江成も、「大竹氏のピュアさ」に気付くまでに、長い時間がかかったと言っていた…。

もっぴとりの伝説。

大竹氏をトップトーナメントに育て上げたのは江成である。これは紛れもない事実だ。そしてこの二人を追ったのは、遅れてサンデーマスターズに入会してきた、まだ無名の岡田清氏であった。すでにある程度の型を身に付けていた岡田氏は、直接二人に教えを乞うという事はなかったようだが、それでも多大な影響を受けたと述懐する。

「いくら狭い業界と言えど、等々力*の三人が三人とも生き残れるわけではないよ。結果を出したのは岡田君ってことなんじゃないかな? もちろんセンスや技術的な面でも抜けてたんだねってことになると思うよ。ルックスもいいし。あと、運とか星とか」

以前、江成が言っていた言葉である。しかしこの言葉を思い出す度にいつも残念に感じるのは、江成も大竹氏も釣りを中断している


という点である。三人全員が釣りを継続していく中で、「淘汰されてしまう者もいた」という話ではないのである。

この連載開始当初、江成という男の伝説ぶりはさんざん紹介したが、大竹氏もまた、江成に負けず劣らずの伝説ぶりであった。詳細は囲みのプロフィールを読んでみて欲しいが、つくづく勿体無いと、常々感じていたのは里だけではない筈なのだ。

*江成は「神奈川三人衆」と呼ばれるのが好きではなかったようだ。江成の同期や先輩達の中に、神奈川県出身のトップトーナメントはまだまだあり、「彼らより、当時の僕ら三人が秀でていたとは思えない。どうしてもこの三人をくりたいなら、せめて等々力フィッシングコーナーにして欲しいが、等々力にも凄いやんちゃって、僕が釣りから離れる頃には等々力に通っていたんだからね」とは江成の弁。何とも羨ましい話である…。

大竹照夫

Teruo Otake
プロフィール



ゴールデンクラブ、北斗へら鮎会、サンデーマスターズに所属し、メジャートーナメントでも大暴れていた、知る人ぞ知る豪腕アングラー(現在はフリー)。ゴールデンでは年間優勝こそないものの、月例会通算10回優勝を最短、最年少で達成した記録を持つ。サンデーマスターズ96年度年間優勝。北斗へら鮎会では平成9年度小結位。ゴールデンクラブでは5年連続三役入り。本誌1996年1月号より1年間、「大竹照夫の熱戦プレイバック!」を連載。直接対決で旬なトーナメントを斬りまくる、最後は誰も出がらなかったという、とんでもない企画であった。93年ジャパンカップ全国大会3位。セットでの短ハリスを全国に知らしめたのは、江成ではなく大竹氏であった。また、記念すべき第1回目のパリバスカップ関東予選では、ブッチギリ1位通過を果たした。釣り方は何と両ウドン!! その他、実績は数知れず。所属会で常に上位を争うとともに、「大会荒らし」としてその名を轟かせた(初対面ながら、中澤岳氏も大竹氏のことには知っていた)。しかし、まさにこれから絶頂期を迎えようとするその時、表舞台から忽然とその姿を消す…。

※取材協力：三島湖・舟宿とも系 ☎0439-38-2544

現在、バクバク状態の三島湖・ボタ小屋下ロープは、舟付き場からふた漕ぎの至近だから初心者でも全然OK! 今すぐ行くべし!! (今月号の小池氏特集も見てね♡)

つばなしの三島湖。

四月中旬には仕事の関係で九州へ発つてしまふ大竹氏にとって、三島湖で竿を出すのは最後になるかもしれない。へら鮒釣りは九州でも出来るが、三島湖はない。「あまりいい釣りをしたことがない」という大竹氏だったが、やはり江成との数多くの思い出の地として、有名管理釣り場ではなく三島湖を選んだのだらう。このあたり、トーナメントに多い、いわゆる「浅ダナセッター」達とは一線を画す。それもその筈、氏はあの「北斗へら鮒会」で三役を張ったこともある実力者なのである。

大竹氏の釣りをこれだけ間近で見るのは初めてであった。いや、一度だけ急接近したことがあった。あれはまだ僕が大学生の頃、今はない野田市の「光園」に遊びに行った時、偶然にも「熱戦ブレイバック」の取材をしていたのである。すぐに「お、大竹照夫だ……！」と気付いた僕は、当時へら鮒に投稿していたこともあり、「こ、これは先輩に挨拶しておかねば……！」とドキドキしながら対戦中の氏に向かって「こ、こんにちは！へら鮒に投稿してます田中と言いますー！」。すると、「あれ、雑誌で見ると違いますね！」とビシビシと「と独特のアフセを決めながら振り向きざまに言われたのを今でも鮮明に覚えている。感激と同時に、「僕なんかの小さな投稿コーナーを知ってるなんて、けっこうマメに本を読んでいる人なんだなあ」と感じたのはつきりと覚えている。

現在の大竹氏は江成よりは釣りをしているらしいが、それでも毎週毎週というわけではないから、月に「二回くらいだろうか。とても「普通」な釣り人である。現在はクラブにも所属せず、トーナメントにも参加せず、全くの



とにかく喋りっぱなしの大竹氏。一見、ムチャクチャなことを言っているようでいて、しかし、実は至極真つ当な事ををきちんと言っている。この豪快無比なキャラクターは、今の業界にこそ欲しいんだけどなあ……

フリーとして近所の釣り堀で竿を出しているとのことだった。地元の方々は、大竹氏がどのくらい「伝説」な人物なのか知っているのだろうか……。

大竹氏が九州へ発つことを知っているかのように、三島湖は絶好調で氏を迎ええた。とも系の釣果ノートには、連日のトップが100枚オーバーと記録されていた。

一本オールで目の前のブタ小屋下ロープへ。風向きを考慮せずにフレ止めのそばに舟を付けた我々三人は、流れてきて溜まる一方のゴミに悶絶（苦笑）。3時間経過で大竹氏25枚、江成14枚、里9枚と、冷静に計算すれば一日100枚は難しい状況だったが、二人ともそれぞれに工夫して、見事に100枚をクリア

してしまった。

ロープにはそこその人数がたかっていたが、日中の両氏の釣れっぷりは、かなり目立っていた。絶好調とはいえ、「誰でも簡単に釣れちゃう」ほどアマくないのが現実である。しかし、逆に言えばそれだけ二人の腕が立つということになる。

今回大竹氏と江成が選択した釣り方は、「バラケにグルテン」の深宙釣り。江成より多いとはいえ、長竿を用いた深宙は、近所の釣り堀がホームの大竹氏にとっては、日頃全く練習することのない釣り方であるはず。もっと言えば、セットの中でもバラグルは、クワセが固形ではなく開きを伴うため、実はかなり難しいと言えるのである。

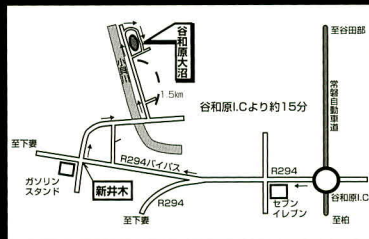


健在。竿を握れば、やはり孤高のセンス全開で釣りまくる。ちなみに…竿掛け、竿ともに段巻きで揃えた大竹氏。道具には相当こだわる派

大小、様々なへらがぎっしり！ カツケから底釣りまで、思う存分腕を磨いてください！！

アたる！ 釣れる！

谷和原大沼



●入場料 1日2000円 半日1500円
女性・中学生以下 1500円

●営業時間
4～9月 平日 6:00～16:30
土日祝日 5:30～16:00
10～3月 平日 6:30～16:00
土日祝日 6:30～15:30

●規定 竿7～18尺 タナ・エサ自由
(生きエサ・一本バリ禁止)

〒300-2400 茨城県筑波郡谷和原村根新田228
☎0297-52-2763

証明。

釣りの帰りに寄った蕎麦屋で、大竹氏はこう切り出した。

「江成君さ、この企画もつ4年だって？ いい加減結果出さないとマズいんじゃないの？」

里は、結果が出るまでのんびり続けていくつもりであること、今のスローペースこそが「普通らしさ」であり、そして「江成らしさ」であることを説明した。しかし大竹氏は納得いかなかったようだ。

「そんなこと言ったら江成君は江成君なんだよ。逆立ちしたって普通の人は戻れないよ。自分でも釣っちゃったからんだけど、いくら状態がいいからって言ったって、今日ボツと三島に来てさ、100枚は釣れないでしょ、普通」

今までも書いてきたが、「全く可能性が見えない、誰でもいい」企画でもない。そんなことは十分に分かっているのだ。

「月イチにこだわるのは勝手だけど、だからって結果が出ないなんて嘘だよ。北斗の福本猛さんが言ってたけど、ある程度のレベルにまで達したら、釣行回数が少なくなったから釣れなくなるなんて有り得ないんだって。状況判断とかの面でハンディはあると思っただけよ。もし本当に釣れないんだとしたら、江成君はニセモノだったんだよ。でも違うよね？ 俺の先生だよな？ 釣りはみんな繋がってるって教えてくれたじゃん？ そんな簡単に崩れちゃっような世界だったとは思えないけど？」

聞いていた当の江成はもちろんだろうが、里も胸が詰まってしまった。師匠を思う深い愛が言わせたセリフだったのだ。

「とっとと結果を出せよ。いつまでやってんだらねえって感じ。イライラするぜ」

せつかくの感動をぶち壊す余計な一撃。おそらくこういふ一言が誤解を招いてきたのだろっ…。(笑)。

「大竹さん、実際今のアニキは予選も通れないんですよ。どうしたらいいと思えますか？ 本当は今日もセットの練習をすべき日だったんですけどね…」

「練習？ そんなもんいらねえよ！ 普通にやれば釣れるよ。どうせまた本番で突飛な釣りやっちゃってんだろ？」

「大竹さん、連載読んでくれたんですか？」

「読んでないけど当たり前？ うーん、江成君は昔っからそういうところがあるんだよ。そういう意味で俺はカタい。大勝負はしないの。だから優勝が転がり込んでくる(笑)。あと、江成君はセティングにこだわりすぎ。適当なところで妥協すりゃいいものを、いつまでも追っかけてるから安定しないんだよ。追っかけてって今日みたいに完璧に決まる時間帯がある時はいいよ？ でも紙一重だよな」

珍しく黙って聞いていた江成が、口を開く。

「そうかもしれないね。色々誉めてくれてありがとよ。でもね、本命のセットで挑んだ予選もあるんだよ。でも全然ダメだったんだ…」

「どうせナジませないで上からの釣りでもやったんじゃねえの？ 流行だからとかなんとか言っちゃってさ。自分の釣りをしろってんだよ。四星」

自分でも気付いていることであっても、こゝもスバリ言われてしまっっては、江成は黙るしかなかった。

「大竹さん、そこまで言うなら次回も出てもらえませんか？ アニキの目を覚まさせるっていう意味でも、ぜひ並んでセットをやってみてもらいたいんですよ。アニキ自身の基本に帰るっていつか」

「いやいや、俺なんか役に立たないよ。それにもう刀は抜かないって決めたからさ、なんち

やって(笑)。釣りにそこまで情熱注ぐ気はないんだよ」

「お願いしますよー！ 4月の頭ならまだこっちにいるんですよ」

「いるけど…ま、いいか。じゃあよし、桟橋で寝てるから」

「それでもいいですから！ とにかくまた来月もアニキと一緒に来て下さい！」

大竹氏は竿を握れば本気モードになる。それは今回の取材を通してハッキリと感じていたこと。そして次回の取材では、大竹氏をさらに燃えさせる隠し玉を用意しようと思んでいる里ちゃんなのだ。

アニキ渾身の連チャンモード！



豪快なアワセ

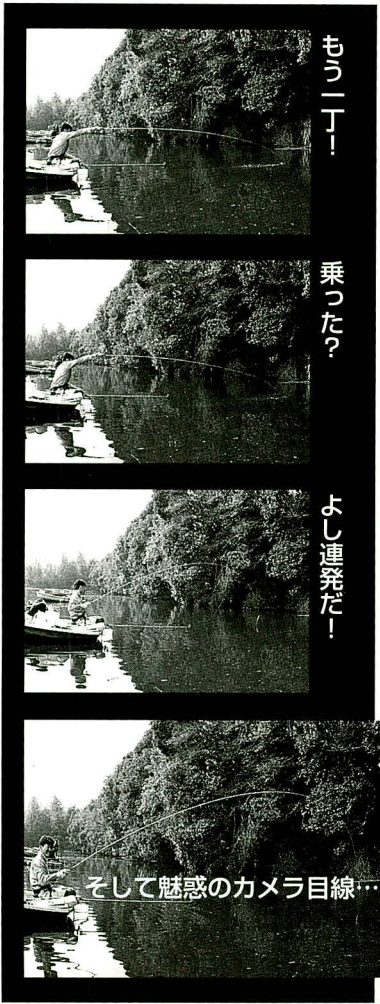
乗ったか？

乗った！

よっしゃー！



「またリャンコだよ～」。叫ぶ江成にレンズを向ける。まだへらは見えないが、感触で分かったのか？ …「足とへら」どっちも「つった」らしい。サブッ！



もっしー！

乗った？

よし連発だ！

そして魅惑のカメラ視線…

再考・長ハリス。

「ところで大竹さん、釣りを止めてはいなかったようですが、一気に表舞台から姿を消してしまっただけではなげだっただんでしょ？ そのへんを聞かせてもらえないでしょうか？」
 「とくに理由はないよ。釣り以外にも楽しいことはたくさんあるしね。オレ、多趣味だからさ(笑)。管理釣り場に行くより渋谷に行く方にハマっちゃってさ(笑)」

「でも逆に言えば、この釣りだけに夢中でいられるだけの魅力がないってことになりませんか？」

「うーん、それは人それぞれだけど、オレにとってはそういうことになるのかな」

「どのへんが大竹さんにとってマイナスでしたか？」

「一言で言えばドンくさい(笑)。面白いけどね。いつまで経っても何も変わらないチンケな業界だと思っただけ」

「おおお、過激な発言ですねえ(笑)。それを自分で変えようっていう気にはなりませんでしたが？ 知名度、アク(笑)、全てにおいて

指導者的立場になるべき人材だったと思うんですが…」

「君も江成君と同じことを言うんだねえ。他の世界を見てごらんよ。いくらでも別の面白いことがあるんだって。へらを改革するより手取り早いよ」

「自分だけ良ければそれでいい、と？ 業界への義務とか責任なんていうのは自分にはない、と？」

「あるの？ ないでしょ？ オレには。そんなに持ち上げてくれるなよ…」

「うーん…残念です」

里が推測するに、いつも一緒に釣りをしていた江成が去っていったのも、大竹氏の情熱が醒めてしまった原因の一つなのかもしれない。その後、本企画で江成がカムバックしても大竹氏の情熱は戻らなかったが、江成がタイトルを獲得したりなんかしちゃったら…きっと大竹氏は戻って来るんだろうなあ、なんて感じた。

様々な趣味をとおしてこの業界の「チンケさ」に気付いた大竹氏には、だからこそこの業界の改革を期待したいし、そのために外の世界を覗きに行っただと信じたい勝手な里であった…
 (以下、次号に続く)

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1. ぐりへの釣会
2. ぐりへの釣会
3. ぐりへら釣会

- ・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店：

柴舟(東京都江戸川区)

03-3613-2727

佐伯釣具店(神奈川県川崎市)

044-911-3722

SANSUI川づり館(東京都渋谷区)

03-3499-5025

フィッシング中原(神奈川県川崎市)

044-711-8266

鮎仙人(神奈川県川崎市)

044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

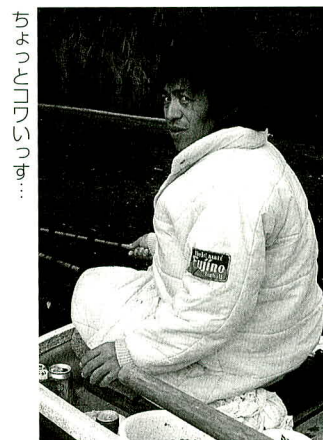
http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com



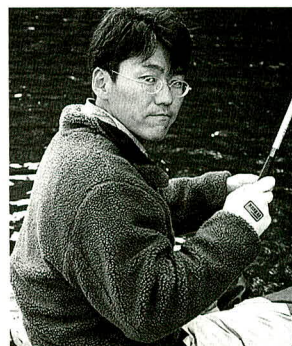
ほぼ一日中ゴミに悩まされ続けた取材当日、大竹氏は超ピンポイントな落とし込みで何とか凌いだ。江成はボディ24センチ(!)という、オモリを楽に3つ巻けるような巨大な自作ウキで強引にナジませた。江成は一番状態がいい時でハリス20-40cmという短めのセッティングで決め、鉄壁のタナを構築。9連チャン12枚(リャンコ3回)で、出だしの遅れを一気に挽回した場面は圧巻だった。写真右の小さい(普通)サイズは朝と最後に使ったウキ



たまたま関べらの試釣で来ていた中澤 岳氏と一緒に記念撮影。写真で見ると、大竹氏は古川君というより茂木昇一氏に似てるかも…



ちよっとコワイっす…



アニキ、大竹さんとの最後の釣りは、堪能出来ましたか?(その後、もう一回取材をすることが決定)



Monthly fishing magazine herabuna

5

特集Ⅰ

大会中毒者に贈る、夢の二大チャンプ競演実現!
最強のフィールドで最強の二人が豪快に釣り込む...!!

岡田清 × 萩野孝之

競演

in 野田幸手園

盛期突入
ダブル特集。

特集Ⅱ

両ダンゴの季節到来!
小雪舞う早春の三島湖で繰り広げられた、
釣神のエサ合わせに迫る!!

釣神 小池忠教

両ダンゴ

in 三島湖

特別企画

厳選 乗込みイチオシスポット

編集部厳選。今年の乗込みは、ココを狙え!

昭和41年5月4日第3種郵便物認可
 平成18年5月1日発行
 2006 5
 持集 夢競演 in 野田幸手園 岡田清×萩野孝之
 持集 釣神面ダンゴ in 三島瀬 小池忠教
 (株)へら釣社



「プライムエリア」が、 またひとつ、快適を実現しました。

機能性に優れ、心地よく使えて、デザイン性も高いフィッシングギアをつくること。それが「プライムエリア」ブランドの役割。「プライムエリアへらシリーズ」では、人気の「ライトへらバッグPA-01セット」や、「へらくッションPA-01」「マルチシートPA-01」など、新たな工夫を形にしたアイテムを展開中。そして今回、へら釣り師の長年の悩みを解消する、ユニークなグルテンボウルも仲間に加わりました。



NEW

グルテンボウルPA-01
 サイズ: 180mm×50mm
 カラー: ブルー、オレンジ、レッド 価格: 各¥900

GLUTEN BOWL

わずらわしかった
グルテンのこびりつきを解消。

特殊コーティングを施したことで、グルテンエサのこびりつきを解消したエサボウル。重ねたときにボウル同士の密着を防ぐ「スタッキングエッジ」を装備。さらに、ボウルの裏面に貼れば、エサづくりの参考にできる、推奨ブレンドステッカーも付いています。カラーは選べる3種類で、複数のグルテンエサを使うときなどに便利。価格もお求めやすくなっています。
*表示されている価格はメーカー希望本体価格です。



軽く拭くだけでキレイに。
 ボウル内側を特殊コーティング処理。グルテンエサがこびりつかず、濡れたタオルで軽く拭くだけでキレイに。水中で拭くとさらに効果的。



ボウル同士の密着も防止。
 ボウルの外側に「スタッキングエッジ」という独特の突起を装備。ボウル同士を重ねたときの密着を防ぎ、積み重ねたときの安定性も向上。

丸キユーへら贈メールマガジン、近日スタート!!

丸キユーでは、耳寄り情報満載のメールマガジンを無料配信します。配信登録の方法など、詳細については丸キユーホームページをご覧ください。

PRIME AREA®

丸キユー株式会社

〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

TEL: 048-728-0909 <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったらiモード・ホームページ <http://www.marukyu.com/i>

雑誌 07907-5



4910079070568
00952